

全国商工会議所会頭アンケート結果

【調査の概要】

- 1.調査期間 :平成 16年 7月5日 ~ 21日
- 2.調査対象 :全国 524商工会議所会頭
- 3.回答数 :292人
- 4.回収率 :55.7%
- 5.調査方法 :商工会議所イントラネットを通じた調査票の送付、回収

INDEX

Q1,Q2 本格的な景気回復時期 2~ 5P

(総評 3P)

(回答結果データ 4~ 5P)

Q3 会頭の考える“改革” 6~ 27P

(ランキング表 7P)

(総評 7~ 9P)

(主な理由 (その“改革”を最優先とする) 10~ 27P)

Q4 新入社員に読ませたい、この1冊 28~ 42P

(1位 坂の上の雲」の推薦理由 29P、2位 武士道」の推薦理由 29~ 30P)

(3位 バカの壁」(推薦者3人) 箒馬がゆく」

職場の教養」の推薦理由 30P)

(推薦者2人) 自助論」 「ローマ人の物語」 「小説渋沢栄一」

「カルロス・ゴーン経営を語る」 「三国志」

「仕事のための12の基礎力」の推薦理由 31~ 32P)

(推薦者1人) 全冊の書名と推薦理由 32~ 42P)

平成 16年 8月 2日

日本商工会議所

広報部 編集

(問合せ先) TEL:03-3283-7901 Eメール: Aoyama_Naoki@jcci.or.jp

Q1、Q2・本格的な景気回復時期

全国商工会議所会頭アンケート結果概要

Q1 わが国の景気が民需主導の本格的な回復に向かうのはいつ頃とお考えですか。 (以下の該当欄に1つ 印をご記入ください)			
すでに回復基調	秋以降	年明け以降	しばらく回復の見込みはない
Q2 貴地域の景気が民需主導の本格的な回復に向かうのはいつ頃とお考えですか。 (以下の該当欄に1つ 印をご記入ください)			
すでに回復基調	秋以降	年明け以降	しばらく回復の見込みはない

- ・「全国の景気回復時期 (Q1)」 「地域の景気回復時期 (Q2)」とも顕著な改善傾向
- ・しかし、「全国」に比べて「地域」の見通しは依然厳しい
- ・地域別では、「東海」の好調が目立つ

平成16年8月2日

日本商工会議所

広報部・編集担当

(問合せ先) TEL : 03 - 3283 - 7901 Eメール : Aoyama_Naoki@jcci.or.jp

Q1、Q2の総評

全国の景気回復時期

Q1「わが国の景気が本格的な回復に向かうのはいつ頃とお考えですか」については、平成十五年十二月の前回調査に比べて、景気見通しの明らかな好転が見られた（**図表1**）。「すでに回復基調」とする回答が、六・一％から二五・九％と大幅に増加。昨年十二月調査では「年明け以降」の回復とする回答が十二・一％が、今回調査では「秋以降」とする回答が二二・八％と大幅に増加。「しばらく回復の見込みはない」とする回答が前回三二・一％から、今回十五・五％と半減している。

地域の景気回復時期

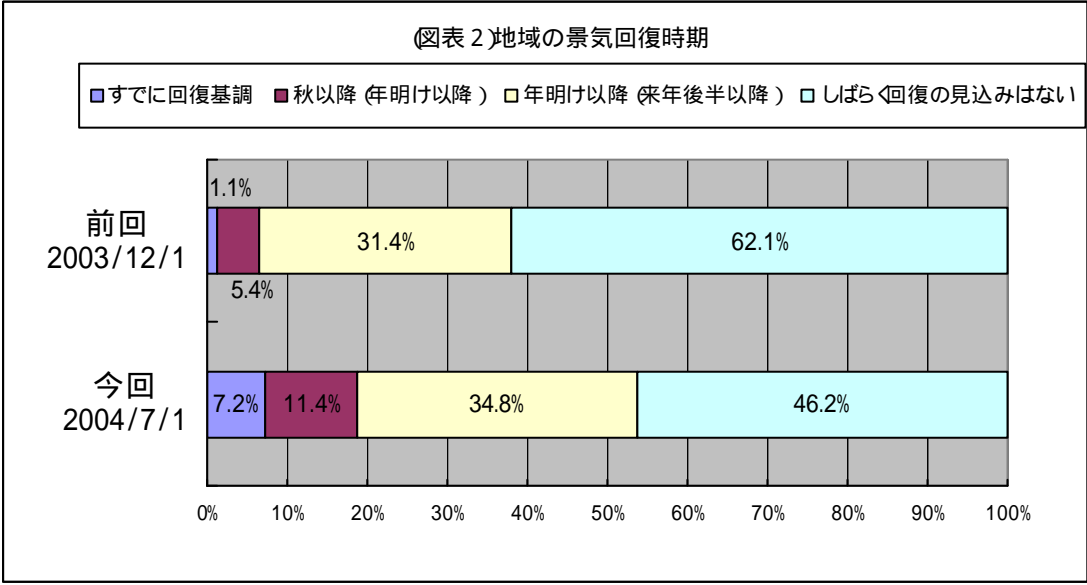
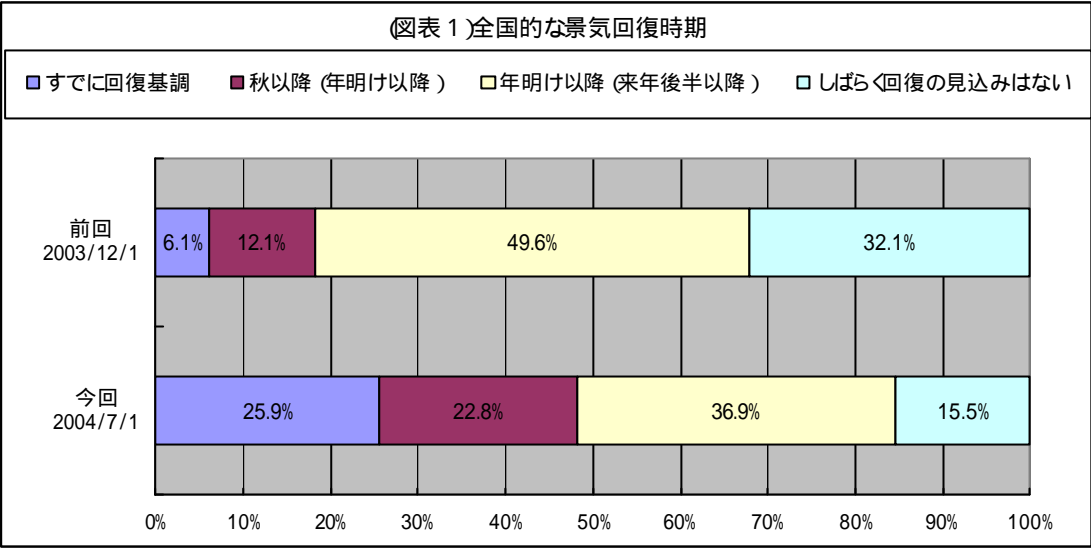
Q2「貴地域の景気が民需主導の本格的な回復に向かうのはいつ頃とお考えですか」については、全国的な景気見通しに比べると厳しさが続いている。ただし、こちらも昨年十二月の調査と比べると改善傾向を示している（**図表2**）。前回六二・一％を占めた「しばらく回復の見込みはない」が、今回は四六・二％。「すでに回復基調」「秋以降（年明け以降）」の回答もそれぞれ、一・一％から七・二％、五・四％から十一・四％と増加している。

地域格差

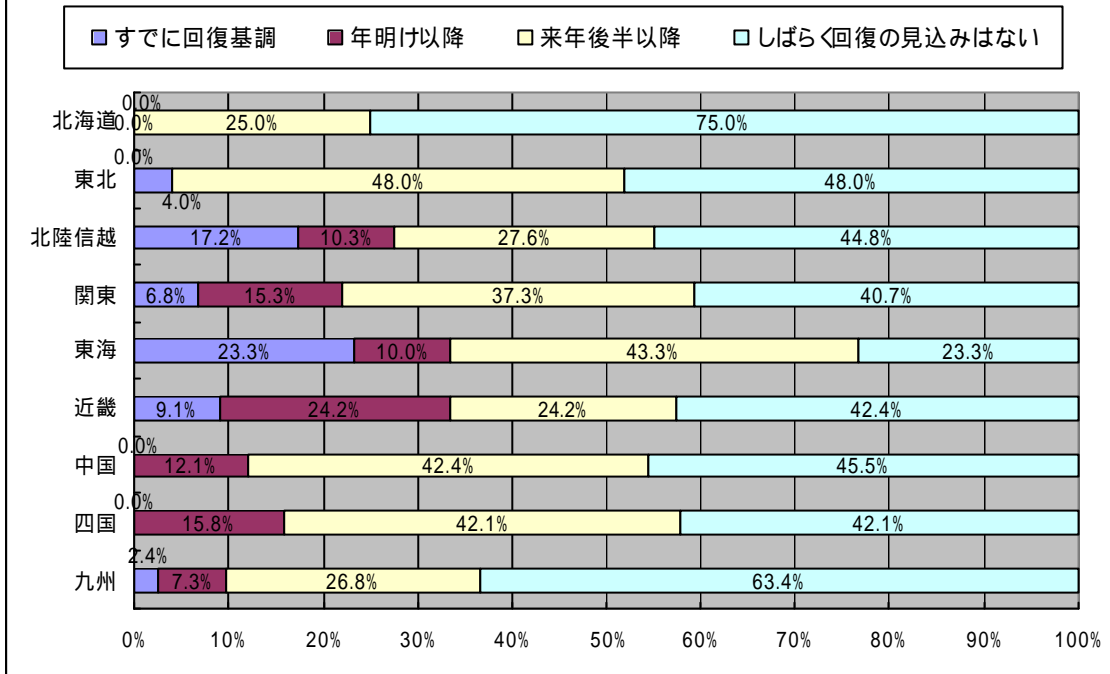
Q2の地域の景気回復時期について、九ブロック毎の回答が（**図表3**）である（**図表4**が昨年十二月の結果である）。

昨年十二月には九ブロック中、東海（四四・四％）を除く八ブロックで「しばらく回復の見込みはない」が過半数を占めていたが、今回、過半数を超えたのは二ブロックのみである。東北（前回八〇・八％から今回四八・〇％）、四国（前回七七・八％から今回四二・一％）と大幅に減少した地域もみられる。「すでに回復傾向」「秋以降（年明け以降）」とする回答も順調に増えている。しかしながら、北海道、九州では足踏みが続いている。特に九州では「しばらく回復の見込みはない」が前回五九・一％から今回六三・四％と小幅ながら増加している。

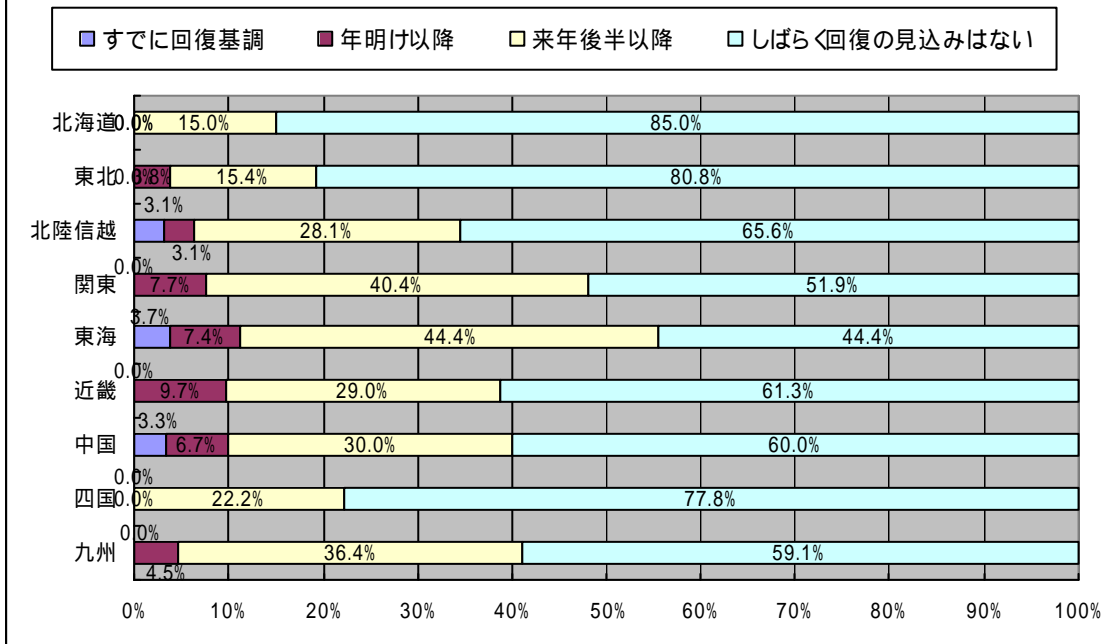
逆に好調が目立つのは、東海地域である。「すでに回復基調」が二三・三％を占める。



(図表3)今回・平成16年7月調査



(図表4)前回・平成15年12月調査



Q3 会頭の考える「改革」

全国商工会議所会頭アンケート結果概要

Q3 今、日本に必要な「改革」とは？

ご自由にお書きください。今、日本に必要な、「改革」と言えば、

改革です。

上記の「改革」について、お感じになっていることをご自由にお書きください。

最も多い回答は「教育改革」

「行政」「政治」「官僚」など、政官への厳しい指摘

「民」の自助努力に自負と期待

「構造」あげる声も、現状への疑問と批判。「郵政」は2人

「意識改革」「自己改革」など、独自の回答も

(INDEX)

・ランキング表 7P

・広報部編集による総評 8~9P

・その「改革」を最優先とする、主な理由 10~25P

平成16年8月2日

日本商工会議所

広報部・編集担当

(問合せ先) TEL: 03-3283-7901 Eメール: Aoyama_Naoki@jcci.or.jp

Q3では、「今、日本に必要な“改革”とは？」として、“ ”改革の の部分を、自由に記述していただいた。さらに、その“改革”が必要な理由を記述いただいた。 会頭自身の考えによる、“真に”必要な“改革”像を探るアンケートである。

【ランキング】

1位(41人)	教育
2位(39人)	行政
3位(37人)	行財政
4位(27人)	社会保障制度(年金)
5位(17人)	政治/構造
7位(14人)	地方(地方再生、地方活性化のための三位一体改革など)
8位(12人)	官僚
9位(11人)	財政
10位(9人)	規制/意識(自己)
12位(5人)	税制
13位(3人)	中小企業(対策)/少子化対策
(2人)	郵政/人間/小さな政府/産業構造/雇用/経済構造/経済
(1人)	若者を育てるための/自ら努力して社会を変えていく/武士道/日本の大転換期(節目)/日本の国家像明示(「改革」は×)/日本/土地税制/都市集中を回避する/都市構造/特殊法人/道路公団/デフレ/中央構造/中央/信頼される国際国家/人生(哲学)/新産業構造/将来ビジョン/自己資本確保/根本/国家構造/国会/憲法改正/経済立て直し/景気回復/技術開発部門/企業経営/甘えの構造/あて職をなくす(適任者を選んで任命すべき)/IT環境(人間の心を失わず活用する環境づくり)

【総評】

1位・教育改革

単一の回答として最多数を集めたのは、“教育”改革(四十一人)である。戦後の教育への強い疑問、将来の日本を担う若者への期待、現在の日本への危機感が如実に示された。

2位・行政改革

二位は、“行政改革”(三十九人)。三位は、“行財政”改革(三十七人)。五位の“政治”改革(十七人)、八位の“官僚”改革(十二人)などを含め、現在の“改革”方向性に対する疑問、進捗の遅れに対する批判、政界・官界に対する強い不満、民間の自助努力への自負と期待などがうかがわれる。

“行政”改革をあげる理由としては、「民間は必要に応じてあらゆる改革をしているが、行政が遅れている」「小泉首相にとって最大の公約は行政改革」「まず行政改革の断行。それができれば他の改革も進む」「(行政と接すると) 自社、自社社員と比較して、考え方、行動、礼儀、勤務時間などに大きな違いを感じる」など厳しい指摘が目立つ。

3位・行財政改革

“行財政”改革をあげる理由としては、財政問題に関する記述よりも、国と地方の税財政改革(三位一体改革)を絡めて、地方活性化策(のための財源確保)を求める指摘が目立つ(“地方”改革(地方再生など)を十四人があげている)。一方で「思い違いの“地方官僚”を出現させないよう望む」とする指摘もある。「省庁合併、独立行政法人化がなされたが中身の改革がない」「改革の名に値する大きな変化はなかった」「議員の数を削減すべき」など、“行政”改革をあげる理由と同様、厳しい指摘がなされている。

4位・社会保障制度(年金)改革

四位の“社会保障制度(年金)”改革(二十七人)では、抜本改革、社会保障制度全体の改革が、将来に向けて必要と指摘。税制(消費税)に踏み込んだ議論の必要性への指摘、企業負担が過大であるとの指摘もあった。

5位・政治改革

五位の“政治”改革(十七人)をあげる理由では、「『改革は痛みが伴う』ということだが、民間は合理化を進めている。政治は改革が進んでいない」「十五年に及ぶ不況の原因は政治の怠慢と貧困」「現在の国会議員はいろいろな角度から見て勉強不足」「憲法改正、教育基本法、年金改革問題など、国の根幹問題で国会あげて議論すべきなのに、枝葉末節の口論に終始、政治の本質を忘れ、ワイドショー化している」など厳しい指摘が相次いだ。

5位・構造改革

同じく五位となったのは“構造”改革(十七人)。小泉内閣の一大スローガンである。しかしながら、理由の記述を見ると、方向性に対する疑問、または構造改革特区など進捗の遅れへの批判となっている。地域経済の活性化策をもとめる意見。金融、大企業などには具体策を講じているが、中小企業施策がないとする意見。ヨーロッパ型の改革を望むとする意見。あるいは、「総合雇用対策」「中心市街地の活性化」など特定の分野をあげて具体策の実現を期待する意見もある。小泉内閣が構造改革の“本丸”と表現する“郵政”改革については、二人の回答にとどまった。

7位・地方改革

七位は、地方改革(十四人)である。地方分権、三位一体改革、地方再生への期待がう

かがわれる。「三位一体改革は、地方財政に負担を強いた内容。今後の推進にあたっては、地方の意見に耳を傾けて欲しいことと、都市と地方間に極端な格差が生じないように適切な行政水準の確保措置が必要」とするなど三位一体改革が国にのみ都合のよいものにならないよう望む意見が目立つ。また、「地方の道路事情はまだまだ遅れており推進を図ってほしい」卸小売業は大型店の出店により地場産業のオーバーストアの状況の中で廃業倒産が増加している規制も必要と思われる」との指摘もあった。

8位・官僚改革

八位の官僚改革（十二人）では、社会保険庁の失態に触れるなど、綱紀粛正、体質改善を求める声が多い。

9位・財政改革

九位の財政改革（十一人）では、財政再建を重要視する一方で、「景気回復なしに構造改革は成功しない」と指摘する意見もあった。

10位・規制改革

十位の“規制”改革（九人）では、より一層の民間活力活用、小さな政府の実現など求める。「縦割り官僚主義でがんじがらめになっている体制を断ち切って推進すべき」など、進展に期待している。

10位・意識（自己）改革

同じく十位となったのは“意識（自己）”改革（九人）。「政治、経済、世相とも行おうとすることと実際の行動が違う。これは意識が現実を把握していないから」「ポジティブに考え自己を変えていく必要がある」「自己責任を他に転嫁する傾向がある」など指摘している。

12位以下

十二位の税制改革（五人）では、「中小企業の体力回復には抜本的な税制改革が不可欠」とバランスのとれた総合的な税制改革への期待の一方、「中小企業はじめ国民の大多数が階層の違いを感じている。一部、大企業、富裕層に利した改正が行なわれているような気がする。年金改革も公平に共生の精神から低所得者に利する改正が必要」と現状への厳しい批判も見られた。また、事業承継税制について非課税化を求める指摘があった。

十三位（三人）は二種類。中小企業（対策）改革では、「中小企業や地方に焦点をあてた改革を期待」「伝統産業の協同組合を今こそ助けるべき」とする指摘があった。少子化対策改革では「労働人口の減少と高齢化は、社会保障制度をはじめ、社会経済全般に大きな影響がある」として、対策の強化を求めている。

その他、「あて職をなくす（適任者を選んで任命すべき）」「日本の国家像明示（改革は×）」など独自の回答もあった。

【主な理由の記載】 原則としてアンケート回答原文のまま

1位 教育改革 (41人)

現在起きている日本の諸々の問題は国家の役割、国民の役割その認識、また歴史、文化、伝統などを軽視してきた教育にその起因があると考えます。時間はかかるかとは思いますが独立国家、世界の中で重要な役割を果たさなければならない国家として教育改革が必要だと思います。そうでなければ、真の発展はありえないと考えます。
日本経済隆盛の礎は教育にあり。世界のリーダーシップを日本人がとっていくためには、個人の能力を伸ばしていく、個性的また、マンツーマンの教育が必要だろう。優秀な人材を育て産業界に送り出すことが、急務である。
現代は、全ての事柄を「お金」で解決するという風潮が強すぎる。以前の日本は、様々なでき事を「心で精算」できる社会であった。以前のような心豊かな社会にするためには、学校教育が極めて大切になる。
家庭、学校、社会の全ての分野で、教育の原点に心をおくべき。家族愛、絆の欠けていること、成績第一主義の学校、会社業績優先は必要であるが、友情や会社愛の持てる教育が欠けていること。
道徳律を確立し、信仰をまず高め心の教育を芯にした指導をするように大改革を 教育改革...学校教育、行政改革...財政問題と民営化
戦後の学校教育のあり方、両親の躰等全般的に厳しさが無い。今後の日本を引っばる若者の世代に対して不安である。人の上に立つ又責任のとれる人間教育が必要である。
幼児の殺人事件等犯罪が多発している事や家庭、学校、社会全ての人材教育が今厳しく求められている。
戦後すでに、59年が経過し、国民の一部の中には、国を愛し、国を守り、そして人を愛し、人を敬う、事が出来ずに、精神的な貧困にさいなまれている人がいる。この様な人が徐々に増え続けている事に危惧している。人の尊厳を明確にする事で(憲法の一部改正を含めて)、自由、平等、平和、博愛を考え直すラストチャンスが来ていると思う。特に若者には道徳的な貧困、中高年者には戦前、戦後教育の矛盾点を明確化すること、そして、高齢者には肉体的寿命は決定的に延びたが、頭脳の進化はそれに連動していない事を自覚し、それぞれの段階に於いて、各人が自らの幸せを今こそ考える時だと思う。
知・体・徳の人間形成の重要性から教育改革が必要である
勤労精神の涵養、保護から鍛錬への教育
1.基礎学力を身につけさせることが緊急の課題 2.真の意味の自由ということの理解を深め行動することが出来る教育 3.子供達が健全に育つためにより一層の環境整備を図る 4.親も学ぶということ(生涯教育)
国民一人一人が、「公」の役割を再認識する必要があります。今一度の家族とか地域とか個が自主的自覚をもって、コミュニティと共生することの意義等...

<p>少子化にとどまらず、日本の人口は2006年をピークに減少に向かい、2050年には1億人を、2100年には6000万人を割り込むという推計もあると聞いている。人口減少の中で日本が経済活動、国力を先進各国に伍して維持していくためには、これまで以上に国民一人一人のマンパワーの向上が課題と考える。</p>
<p>国の景気回復には健全な財政基盤が不可欠である。財政改革により財政の健全化を推進してほしい。礎は人材にあります。</p>
<p>我国の将来を担う若者に今最も必要なものは教育だと思う。痛ましい事件が増えていることについて非常に憂えているし、定職に就かない若者が増加する一方で、少子化対策についても急務ではないだろうか。道徳、倫理、規範意識を含めてこれまで以上に、真剣に教育改革に取り組むことが、日本全体にとっても、また各地域にとっても重要かつ喫緊の課題といえるだろう。</p>
<p>子供達(0才～19才)の親が道徳の勉強をし、教えを受けて自分の子供に伝える事が一番大切なことと考える。親の時間の使い方がまずい。(解っていない)国が文部省の全国の子供を教育する現場に通達をし、先生方の特別教育をするべきだ。</p>
<p>“他人に迷惑をかけない”“他人を傷つけない”(精神的にも)の人の道を親がしっかりしつける必要。現状では上記のような親作りが急務。</p>
<p>教育には真の智育・体育・徳育が必要。智育は創造力と集中力、体育はしつけと礼儀、がまんとなげばりの強靱な精神力、健康な体、徳育は他人を思う心と他人からしたわれる人格</p>
<p>情操教育の不完全さへの改革、愛国心、博愛、礼節、素養、質素、儉約、勤勉、等等先ず教員からの改革が必要ではないか。教員免許の簡単な授与撤廃</p>
<p>凶悪犯罪の低年齢化傾向が顕著になるなど、今こそ“知”“徳”“体”の三位一体教育の「改革、推進が肝要である。</p>
<p>経済も暫く回復基調に入ったとはいえ、輸出に支えられている面が大きい。世界の社会・経済・政治構造が激変しつつある現在から将来にかけて日本が、国際的に孤立しない為には、智・徳・体の調和のとれた人格を創る教育システムが必要である。</p>
<p>目的意識を持たないまま進んでいく現在の教育システムには課題が多いと思う。社会に出ることを意識したシステムの構築が必要では。</p>
<p>規制を排除した国際的に開かれた教育の推進</p>
<p>ゆとり教育、変な平等主義の見直し、教職員の質の向上</p>
<p>これからの日本を担っていく子供、若者かつ教師の教育を基本からやり直さねば、日本はダメになる。巷、乗り物の中の子供、若者をみれば、誰もが意識している事だ。</p>
<p>日本の歩むこれからの時代は、日本文化の伝統を正しく継承する人間教育と、世界に向けて活躍できる青少年教育に真剣に取り組むことが必要である。</p>

<p>知育、徳育、体育の全ての面で低下している。特に徳育に力を入れるべきだ。親が子を子が親を、そして子供が子供を殺すなど、信じられないようなひどい事件が毎日のように新聞にのる。ひどい世の中になってしまった。またパラサイトシングルなどという独立心に欠ける人が増えているのも問題だ。</p>
<p>「質実剛健」の教育が薄れている現在の社会風潮にあって、心身の教育こそ大切と思う</p>
<p>我が国にとって人材が最大の知的財産であるとすれば、人材を育てる教育が大きな課題と考える。学校現場の教育力の向上の為に教員免許制度更新制の導入及び指導力不足教員の配置転換の措置等の制度改革を望む</p>
<p>子供に人間として最低限必要な行動様式や態度を身につけさせ、国を愛する心、故郷を愛する心を自覚させる教育を徹底する。現在の大人をみれば、戦後教育の失敗は一目瞭然。</p>
<p>以前であれば考えられないような年少者による事件の発生、若者の学力の低下等を考えると、次代を担うべき人材を育てる必要があり、教育改革を行うべきである。</p>
<p>家庭教育で親が子供を叱ることを知らない。又仕事の手伝いをさせない。学校教育も先生が父兄に遠慮し叱らない。甘やかして教育している。その為我々経営者が最高</p>
<p>社会帰属意識の希薄化、学力体力の低下、倫理観の欠如など次代をになう子供達に対する教育が大きな問題となっている。今こそ家庭、学校、社会連携のもと、「心」「和」「体」のバランスのとれた実践的教育が求められている。</p>
<p>自由について、権利と義務のウェイトが偏重しすぎている点を直すべきである。又、小・中学、個が出来ていない時、ゆとり教育が果たして効果があるのか疑問だ。地方でのにぎわいを取り戻すには郷土を愛する心と定着が必要ではじめて雇用もうまれる</p>
<p>国の将来を考える時抜本的な教育改革が必要と思う。特に少子化問題もあるが、その前に低年齢層の犯罪多発を思うに家庭環境等もあるが教育者の育成に問題点があると思う</p>
<p>暖衣飽食の世の中になり、経済は不景気といえども生活に窮するような状態ではない。従って家庭、社会、学校に於いて、子供たちに対する厳しさが欠け、甘えの構造が横行している。人に対する思いやり、又感謝の気持ちを持つ様な教育をしなければならない。人によって生かされているという認識を、社会、家庭、学校それぞれ三位一体となって真剣に取り組んでいかなければ日本の将来は崩壊してしまう</p>
<p>未来を担う子供達の目的意識が薄く感じられる。又、家族崩壊の原因である両親の子育てに対する考え方をもう一度検討する必要があると思う</p>
<p>教育改革には100年かかる。一刻も早い取り組みを</p>

2位 行政改革 (9人)

民間は必要に応じてあらゆる改革を計っているが、行政がかなり立ち遅れている。倒産という事が無縁なものと考えているから。黒丸 ばかり
地方分権、官から民へ、カケ声ばかりで中央集権がますます強まっているように感じます。もう少し地方の自主性にまかせては？
中央省庁を思い切って縮小し、本当のプランナーだけにして、地方局的な存在に実務を全部移す。したがって、外交と全国的な警察組織のみを残し、地方局を中心とする地方分権を思い切って進めるべき。
何だかんだと言っても官中心の主導で、それはそれで何でも民主導とはいいませんし、力も実際はないと思います。目的は国民全体の為であり、役人中心のものであってはいけません。
行政機構・システムが、国内外の急速な社会・経済の変革や、新たな現象に呼応できていない。
国際化、変革の時に合せて小泉内閣が構造改革を唱えて三年余り先経ておりますが、いまだ実体が見えません。地方の県、市町村はじめ中小企業の商工業者は頑張っておるのに、変な勝ち組、負け論が横行しております。中央官庁、国会議員は縦割、利権に走っております。
国民も経済界も景気の回復を願っている。そのためには、金融、税制、規制の改革はもとよりであるが、行政改革こそ優先して取り組んで欲しい。既得権益を守ろうとする勢力の激しい抵抗があるため、従来、政府が最も手がつけにくかった行政改革を断行して欲しい。これができれば、他のすべての改革が容易に進むであろう。
国の行財政改革の中で国の施策が必ずしも地方財政に直結していないものがあり、地方分権を含め行政システムを見直す必要がある。
官から民へ、中央から地方へ
国・地方公共団体・議会(国会議員等)・特殊法人などの人員・給与・年金・退職金等の削減をされ、地方の景気回復に充当されたい。(早急に)
役所のムダを排除することによってのみ、民間需要が拡大する
「小さな政府」づくり、現行の行政改革は中途半端、組織、人、経費の半減
税金等の無駄づかいが多すぎる
政策決定の短期化と実施迄のスピード化、国等の官営事業の民営化
郵便事業の民営化の推進、地方行政においては外郭団体の見直し
自助努力が一番大事
改革を旗印に総理総裁となった小泉首相にとって最大の公約は行政改革だったと思う。しかし、就任3年を超えているのに国民や企業に負担を強いる施策ばかりが先行し、肝腎の行政機構の見直し、公務員の削減、地方への権限委譲などはっきりと目に見える行政改革がなされていない。率直に言うと行政改革の進展が非常に遅いと言わざるを得ない。

<p>行政の効率について私自身どの程度理解出来ているのかは解りませんが、副会頭、会頭の職に就いて従来よりも行政関係者と接する機会が多くなっているのは事実です。そこで自然と自社若しくは自社社員と比較します。そこで考え方・行動力・礼儀・勤務時間等に大きな違いを感じます。その割には給与面は悪くありません。もっと真剣に民との違い(効率・生産性)を知るべきです。これには各部署の長とまとめる長の資質向上が必要です。この改善が行政改革と考えます。</p>
<p>本格的な地方分権に行政を改革すること 三味一体を奥のあるものにする 市町村合併を推進し、スリムな行政をつくること 民間にまかせること</p>
<p>これまで何度も行政改革が行われたが掛け声倒れになっている。政府はもっと真剣に「小さな政府」へ向けた長期的な取組みが必要である。また特殊法人についても独立法人と名称変更しただけで補助金の削減はされているものの廃止や民営化といった基本的問題が解決していない。</p>
<p>経済回復は経営の合理化等による経営改革によるものであるが、行政に於ける改革は大幅に遅れている。公務員の人員整理を行なえないところがその原因となっている。</p>
<p>解り易い規制緩和、行政のスリム化</p>
<p>特に、都市計画や建築基準等が、何十年も前に定められた基準で運用されているものが多く、新しい時代に対応したまちづくりや道路整備、新建築が出来にくく、規制を解除する方向で抜本的な見直しを図るべき。</p>
<p>これまでの行政改革は国の仕事を民営化したに過ぎない。JR、NTT等がそれでありJRはうまく行った例であろう。しかし今必要なのは役所役人の働き方、賃金のあり方等を変える真の意味での行政改革が必要と考える。議員の数を減らすこともその一つである。</p>
<p>少子高齢化が叫ばれている中、出産費用等を保険適用すれば、子供が生みやすくなるのでは、現状では高額負担がかかり若者には大変と思う。早急に対応を。又年金改革については大変理解しにくい。</p>
<p>ムダを省き、小さな政府を目指すべきである。</p>
<p>国の歳入不足(特に税収不足)による歳出改革が必要ではないか。しかし地方において公共事業の抑制は頭が痛い問題である。</p>
<p>行政改革と財政改革が同時に議論される。そのため改革が進まないと思う。両者を切り離さず行政改革を行う。この改革が進めば必然的に財政改革につながるものが多い。</p>
<p>社会保険庁等不正が多い。行政改革が最も急がれる課題と思います</p>
<p>三位一体の改革の推進、日本の景気は民間では回復基調、後は官のコストを切り下げないと外国人投資家の日本離れが加速する。12月の予算編成がカギ。</p>
<p>民間企業に比べて、国・県・市町村の行政改革が遅れている。</p>
<p>特に規制緩和がほとんど進んでいない。また縦割り行政を糾すべきである</p>

3位 行財政改革 (37人)

<p>経済社会の成熟化が進み、少子高齢化、グローバル化、地域環境問題の深刻化、高度情報化、財政状況の逼迫化、意識や価値観の変化、多様化など地域を巡る環境が大きく変容している。これら環境の変化に伴い、これまでの中央集権的、画一的な政策展開に限界が現れている。地域再生に向けた取り組みを本格化させると同時に、国の構造改革の目指すところを国民にはっきりと示すことが必要だ。</p>
<p>北海道は公共事業の削除が致命的になっている。長い間、社会資本整備と北海道経済を支えて来た建設業が突然、政治的に激減された。当然身を切るようなリストラ等でのいであるが、仕事は激減した。官庁はほとんど変わらず。大改革を断行して対応すべきである。</p>
<p>いっこうに進んでいない、本気で行って欲しい</p>
<p>行政 財政の両輪をスリムに効率良くわかりやすく改革する必要がある。三位一体改革によって地方分権のあり方が問われ、地方自立に向けて。</p>
<p>・国、地方合わせて700兆円を超える借金の返済の筋道をつけること。 ・公社、公団の民営化のさらなる改革の断行をして欲しい。 ・公務員制度の改革(天下り人事の是正)と歳出の見直し徹底。 ・三位一体改革の推進(地方が喜ぶ。潤う改革であるべきだ)</p>
<p>行政に民間の経営システムを導入し、官中心、役人中心の社会から、民中心の社会に改革しないと、日本はダメになる</p>
<p>民間の急テンポに比べ、官が極端に遅れている。年次を決め、行政のスリム化を財政再建のためにも是非進めて頂きたい。</p>
<p>一日も早くデフレを解消し、上向きつつある現在の景気を中小企業や地域経済へ広く波及させるためにも、更なる景気対策を実施してほしい。その上で行財政改革を進めて頂きたい。先般、年金改革について強行採決されたが、真に持続可能な社会保障制度全体の抜本的な改革を図って頂きたい。</p>
<p>既に日本の財政は、国、地方を通じて破綻状態にあると認識しています。国も地方も行政を効率化、スリム化し、小さな政府を目指す以外に日本再生の道は無いと思います。</p>
<p>国・地方の借金をこれ以上放置してはいけません。それには行政のスリム化が不可避である。また民のことは民に任せるべき</p>
<p>行政についてはもっと大胆な規制緩和と、財政では地方の公務員の人員整理と民策への移行が重大であり、特に中国等を含めて国家は補助助成金の抜本的改革が肝要。</p>
<p>いらぬ省庁の統合では人が減らず、人件費の削減にはならない。思い切っていない。省庁は廃止すべき。地方の出先機関は人が減っているが、人件費の高い「霞ヶ関」は減っていないのではないかと。官庁のあらゆるムダを省いた上で、一番高い人件費を減らせ。</p>
<p>日本は成熟社会となりました。地方の自由度をもっと認める規制改革が必要です。東京で作った規制服を地方が着るには無理があります。</p>

<p>官の肥大化で組織が硬直化している。スリムな体質で効率を計るべきである。財政面においては、医療、福祉、環境整備に全てがかかる。ムダな経費を英断をもって整理すべきである。</p>
<p>まずは参議院の廃止を始め国会のさまざまな無駄をやめ、地方に於いては合併によって議員数を五分の一のアメリカ並みに</p>
<p>バブル期に残した債務・設備・雇用の過剰を民間企業の努力で解消し、大局的な景気上昇の芽は出てきたが、政府のいう公共関連の施策はスローガンのみで着手されていない。719兆円の国・地方の債務をどのように解消するか、具体的手法を明示すべきである。年金問題・三位一体改革も、これなくしては実現できない。</p>
<p>民間は、日々が戦いであり、戦いに負ければ倒産という最悪の事態を招く。一方、役所は民間から徴収した税金を有効利用することによって市民生活の向上を図るための意識を持ち改革することが重要である。</p>
<p>これらの改革が必要であり、歴代内閣が重点施策としているが、その実行はどの部門を見ても難しいのが現状だと感じる。</p>
<p>国、地方合わせて900兆円以上の借金をかかえ、しかも年数十兆円ずつ増え続けている。社会保険庁の如き例が各官庁に幾多とあるのではないか。これも政権交代のない独占国家と同じように同一政権が長く続いてきた結果であろう。二大政党時代の到来が望まれる。</p>
<p>1、国の借金を放置したままで良いか 1、民需主導の景気をつくり出す施策の必要</p>
<p>行政・財政の改革は、これまでも取り組んできたわけですが、真に“改革”の名に値する大きな変化があったでしょうか。地方の権限移譲も重要ですが、単に思い違いの“地方官僚”を出現させることのないよう願っています。</p>
<p>700兆円の借金。一刻も早い日本国の建て直しを</p>
<p>国の借金は700兆円を超え増えつつけている。少子高齢化が進む中で、年金問題が最大の課題である。政府の進めている小手先の改善策では解決できぬ。抜本改革を望む</p>
<p>年金などの社会保障制度を確実なものにしてほしい。年金保険料の未納問題についての改善策を早急に検討されたい。社会保険庁の見直しを実施されたい。</p>
<p>規制緩和が進めば、我々商工業者には、厳しい競争となるが、消費者に弄ばれる新スタイルを早急に見出さねばならないと考える。スリムな行政組織の確立と無駄な支出を徹底してなす大改革の断行</p>
<p>歳入歳出の均衡 増税なき財政改革 組織の簡素化、業務処理の定員の見直し 年金、報酬、退職金等官、民格差の是正 少子化対策 教育改革 日本の伝統文化を基礎にした近代化等</p>
<p>省庁合併したが、中味の改革が未だ出来ていない。独立行政法人になったが、統廃合すべきである。</p>

国、自治体の議員、職員の大幅減員が急がれます
中央官僚が細かな予算を机上で作り地方の裁量に嘴を入れすぎる。地方の時代とはいづからの標語か。
グローバル化、急速な少子高齢化に如何に対応していくが一番大切なことだと思います。少子高齢化に対応した持続可能な年金社会保障制度の確立と、行財政コストの大幅削減、公務員の削減も含め、小さな行政をつくり、財政の健全化をはかること。消費税アップによる税収対応。
政府が推進する「地方分権、三位一体の改革」の初年度は国の財政再建が優先され地方財政に負担を強いる不十分な内容になった。今後の推進にあたっては、活力に満ちた地域社会が実現できるよう地方の財源に配慮する等地方の意見を重視してほしい。
年金問題に関しても、議員の多くに（総理を含み）国民年金の未納があり、国民が納得する積りもきちんとせず、結果として自民党は敗北した。議員の数は再度減少し、議員にももっと厳しい現状の経済を理解してほしい
市町村合併が徐々に進むが、遅々として行政職員の数が減らない。定数削減の目標を設けて、それに向かって如何にあるべきか、検討すべきである。先立って日商で説明のあったアウトソーシングを採用すべきである。そうする事によって、サービスの向上はもとより、経費削減 20%くらいはすぐに捻出出来るであろうと思う
特殊法人見直しと天下り廃止を切望

4位 社会保障制度（年金）改革（27人）

年金不安により購買力が低下。すべての業種の売り上げに影響をあたえていると思われる。
国民に社会保障制度のパッケージを示すことが、重要課題と認識しています。社会保険庁の不透明性、無駄づかい、情報の不開示。なんとかありませんか。
今、国民が最も身近にかつ不安に感じている問題である。先ず国の負担部分と個人の負担部分を明確に区分すること。国の負担部分の財源を特定すること（たとえば消費税）で公平かつわかりやすい制度の構築が急務
抜本的改革案をまとめ、税制の改革（消費税引き上げを含む直間比率の見直し）を合わせて出来るだけ早く断行すること
年金、医療、介護の一元により、国民全体が安心して今後生活出来る制度を望む
特に、年金問題、景気動向等、将来の指針を示すこと
現在の厚生年金保険料 13.58%（労使で折半を負担）を毎年値上げして最終 18%強までにすることは、中小企業の経営がきびしい状況下では、経営の存続ができなくなる。
年金制度の抜本改革 医療・介護保険制度 少子化対策（出生率、育児支援制度）
来る高齢化社会において、高齢者が安心して生活できる社会保障制度の確立

現在の被保険者のみが年金財政のツケ・負担増を強いられる。保険料未納者、未加入者、また現在需給中の方々にも何がしかの負担があってもいいのではないか。このままでは若者の年金はなれがますます進む。
安定的な経済成長や景気回復には、将来の生活に対する不安の払拭が必要。
現在の制度は複雑過ぎる。もっとわかりやすい制度に改革し、広く国民が将来に希望を持てる制度に「信頼」を取り戻す事が急務。又、議員年金は廃止すべき。
改革に伴う税のあり方についても議論すべき。
量の文明から質の文明へ、各人が生活の質を高める時代に入っています。中長期視野での各種改革も、もちろん必要ですがまずは、年金・金融・税制など生活に身近なところでの先行き不安を解消することが大切と考えます。
目先を狙った改正では解決できない。将来に悔いを残さない(限りなく少ない)選択をすることが国民の幸せに結びつく
現制度での継続は不可能である。透明性のある論議の中で、わかりやすい制度となることを望む
年金を含め、社会保障制度を前期ビジョンで総合的に改革し、国民が安心して暮らせるシステムを
・年金改革 負担が増加する一方で給付は下降傾向にあり、先行不安は大である。
保険料(負担)と給付額、それに関係する財源、組織のあり方(社会保険庁など)総合的な検討が必要と思う。
消費税の増税を前提とした改革に取り組んで欲しい
年金をはじめとする抜本的な社会保障制度の改革が必要ではないかと感じております。
若い人が応分の負担をしながら、老後は安心して暮らせる年金制度を抜本的に改革する必要がある。又、国会議員等の年金制度も国民が納得するレベルに引き上げるべきだ

5位 政治改革 (17人)

政治家のモラル、倫理性の低下(低レベル)是正すべし(国) 政治家の勉強不足(実態分からぬままの論議)(国、地方共)
国民が自分の国の将来に自信と希望を持てる政治を
憲法改正、教育基本法、年金改革問題等、国の根幹に関する事に国会挙げて充二分に議論すべきところを枝葉末端部分での口論に終始しているよう(田中 真紀子的な)で政治の本質を離れ、ワイドショー化している。
内閣や政治は、これらの改革に対し、何も対応していない。
15年にも及ぶ不況の最大の原因は政治の怠慢と貧困にある。

国民から吸血する前に、政治家や官僚が痛みを知る事が大切である。
現在の国会議員はいろいろな角度から見て勉強不足
「改革は痛みが伴う」とのことですが、民間企業は痛みを実感しながら、経営の合理化を進めております。政治に関しては、改革が進んでないように思う
現在の政治の仕組みは自公連立ですが、基本は自民党一党の長期政権です。そうしたこともあって、政治自体に基本的な緊張感を欠いたままで、国民全体に向けて、世界の国々に向けて、わが国の将来ビジョンを示して、国民に目標をもたせると共に、世界に対しても寄与をアピールできるリーダーが出現しないのは悲しい限りです。同じく行政の世界でも既得権益の確保がまず第一というようなところを抜本的に改革すべきです。
政策がまずい。構造改革が遅い。民意と政治とのギャップ差
日本の将来像をもっと明確にして欲しい
世界や日本も大転換期に入っている現在、21世紀我が国の方向を明示する政治家や政治。大変危険だと感じている

5位 構造改革 (17人)

景気回復の遅い地方への対策が見えない。構造改革の影響を受ける中小企業への手当て、対策が示されていない
総合雇用対策の「雇用の受け皿整備」「雇用のミスマッチ解消」「セーフティネット整備」の3つの課題の地域格差が拡大している。道北地域は全ての面に於いて厳しい現実が続いている。
創業精神に戻った構造改革を主導とした中心市街地の活性化
地域の特性に応じた新しいビジネスを生み出して地域経済を活性化させる必要がある。
補助金頼みのスタイルから自助努力型に、(アメリカ型から出来ればヨーロッパ型が望ましいが……。)
道路公団の改革は不十分、郵政事業にあたっては協力なリーダーシップの発揮を構造改革特区の進展に遅れが見られることを残念に思っています。
日本再生論に対し、余りにも遠回り。広域合併に対し、アメムチによる必要な再投資等ムダが多すぎる。日本の次代はそんな有余の状況ではない。
長年に渡る習慣等既に出来上がったものを一気に改革することは非常に困難。一步、一步できるところから自信をもって、急がずに着実に変えていくことが重要。
著しく進展している国際経済の中で、我国経済を支えるためには未来型構造改革を目に見える形で推進する必要がある。特に地方と都市部においては、構造的に格差があるので、改革実現のための具体的施策が望まれる。

小泉首相の推進している構造改革は、国内の金融業界における都市銀行等の吸収合併、建設業界のゼネコン等による吸収合併、あるいはその他大企業のリストラにより、国内大企業においては改善の兆しが明確に現われていると推測される。反面、国内の経済を支えている大部分の中小企業は、以前厳しい状況にあり、構造改革の成果は未だ末端には波及していない状況にある。小泉首相においては、早めに目に見える、そして、中小企業にも反映される改革の実現を強く望む。

7位 地方改革 (4人)

景気回復感に地方と中央ではかなり温度差があるのではないかと。真の意味で「自主・自立を高めるための三位一体の改革」を進めるべきであり、地域再生、即ち地方を改革することが我国にとって喫緊の課題ではないかと考えている

三位一体の改革において、本年度は地方財政に負担を強いた内容といえます。今後の推進にあたっては、地方の意見に耳を傾けて欲しいことと、都市と地方間に極端な格差が生じないように適切な行政水準の確保措置が必要と考えます。

国の財政は、外交、防衛、通貨に限定するというように、国と地方の役割を明確にする。そのためには、国の規制を外しながら地方分権を推進する必要があり、国に都合のいい三位一体改革でなく、地方に配慮した三位一体改革が不可欠である。

交付金を毎年削減し続けての広域合併を進めることは不可能です。健全な地方財政のために再考慮する必要がある。

日本の各地域は、政治経済的にも、心理的にも「中央集権・官依存」の体質に慣らされてきた。その結果、地域の活力が失われている。地域の特性に合った自治を実現する「地域主権・民主導」への転換が必要である。

中央集権体質が自覚できていない所に東京発想の限界がある。首都移転、地方分権をお題目として唱えるのを反省し、国会も大相撲を手本に地方開催を試みたら、変化が始まる。

小さな行政をめざし、県市の職員の仕事を大幅に民間に移行させること。これにより人件費等の削減と民需活力の発生が可能となる。

地方分権の推進については、三位一体の改革が進められており、道州制の検討も始まっている。しかし現在のところ、必ずしも地方が自立する方向には向かってない。今後、各地域が持続的な発展を遂げていくためには、従来のような中央主導ではなく、地方、地域自らの決定と責任において進めることができる形に作りかえていく必要がある。

地方対策にもっと注力してほしい

急速な進展を見るアジア特に中国の発展新興は、我が国の経済の発展に少なからず影響を及ぼしているのではないかと考えますが、その影響を地方が受けるまでには、時間がかかり当分は地方の経済の好転には結びつかないものと考えます。地方の生き残りは、発展地域との交通通信体系の確立により、瞬時の流通経路の早期開設と既存企業、産業を

更に発展新興させるための技術資本力の増強を図るため、国の強力な援助をお願いしなければならぬと考えます。

一次産業に対する国や県の支援策の強化を 地方の道路事情はまだまだ遅れており推進を図ってほしい。卸小売業は大型店の出店により地場産業のオーバストアの状況の中で廃業倒産が増加している。規制も必要と思われる。

全ての面で都市部より遅れる

「官から民へ」国から地方へ」の考え方の下、地方の権限と責任を大幅に拡大し 国と地方の明確な役割分担に基づいた自主・自立の地域社会からなる地方分権型の新たな行政システムへの移行に対しては、税制移譲の傍ら地方交付税が削減され、国の財政悪化のしわ寄せとして、負担を「地方」に転嫁することのないよう慎重に進めるべきである。特に本県の場合は、沖縄振興特別措置法の目的 趣旨なりが忘却されないように配慮すべきであると考えております。

8位 官僚改革 (12人)

郵政 社会保険庁等々官僚特権を廃止すべき。

社会保険庁の新長官に損保ジャパンの村瀬氏が内定しているが、これは民の力で官を改革することの表れであろう。民のムリ ムダ、ムラを省く発想を官に望みたい

自省に関係あることのみ、熱心。テクニカル。他人に解りにくい。排他的

景気回復に持続性を持たせるには、官の市場を開放することにより コストも下がる。雇用も増える。

国家財源の圧迫

IT 産業、教育に於ても、抜本的に行政改革が必要。バブル時代に官僚は、権益を守るのに、城を多く作り 天下りの温床となった。又我が国の科学技術の発展(若者の純真な技術者)を阻害している

年金(社会保険庁) 警察の不祥事(都道府県警察) 核燃試算隠し(経済産業省)等の問題は各職員の責任感の無さから発生している。これらの解決には組織構造を根源から改善する必要がある。

政府、官僚の綱紀粛正

9位 財政改革 (1人)

社会保障等、将来世代が安心できる財政の確立

年金問題を見てももっとわかりやすいそのない政治をして欲しい。

景気回復なしに構造改革は成功しない。この点を十分に認識し、今後、弾力的な政策対応を講じることが重要。

700兆円の国債発行高はやがて昭和20年8月15日敗戦の日と同一結果になる。インフレとなり現在の貨幣価値は数分の一となる。それをストップさせることである。亡国である。
国及び地方を含めた膨大な財政赤字を最優先して着手する必要があるのではないかと考える。
日本は現在、700兆円と言われる負債を抱えている為、孫の代まで、この負債を残すわけにはいかない。抜本的な財政改革が必要不可欠であります。
国の借金が700兆円を超えた。1年間の国の歳入約40兆円の17倍強となる。プライマリバランスを早急に立直す必要あり
国の景気回復には健全な財政基盤が不可欠である。財政改革により財政の健全化を推進してほしい。
現在、将来にわたる国民生活、社会保障への安全、安心の為に必要、優先すべきである。

10位 規制改革 (9人)

小泉内閣が志半ばで終わっている。規制緩和政策を徹底すること。縦割り官僚主義でがんじがらめになっている体制を断ち切って優先順位の高い政策への財政配分によって明確な産業政策の確立。財政の赤字の解消に景気回復による税収の向上しかない。国家百年の大計を明確に示して年金問題等についても是が非でも明示して気休めでない政策の提示が必要。
特区などの好事例を含めた規制緩和を更に進めて民間委譲を広げ、民間が出来る事は民間に任せて企業活動の機会を増大させ「民間活力」による地域振興を図ることにより消費拡大や新創業、新たな雇用拡大に繋げる。同時に企業課税の負担軽減を促進して企業活力の増進を図ることも必要。また、規制緩和により行政の守備範囲が少なくなる事や、人口減少社会が目前に迫り経済活動においても量的縮小を迫られる事から、肥大化した政府の人員や歳出を縮小して「小さな政府」の実現を目指す事も必要。
規制が多すぎる。もっと自己責任で、自由にやらせるべき。官は責任を持ってやるから良い、民は無責任と言う。官善民卑な考えを変えるべき、官がミスをして責任を取った事は一度もない。
規制緩和が順調に推進されれば、新規ビジネスの参入や新しいサービスの開拓が図られ、生産の効率化や国際競争力の向上につながり、市場の拡大や雇用の創出が生まれ、活力ある経済社会の構築が図られる
規制改革にしても、企業活動のインセンティブとなる税制改革にしても政治の官僚に対する指導力が発揮させることが重要。
各省庁による慎重論を乗り越えて時間とコストを節約するようにすること
遅々として進まないが民間活力を生かして欲しい

10位 意識(自己改革) (9人)

世界の中で日本の置かれている立場の変化を認識する必要ありと.....
あらゆる面で、従来からの考え方を点検し新しい視点に立った改革をしなければならない時期であると考え。旧態依然からの脱却を図らなければ将来を明るいものに出来ない。
経営者の意識改革、社員の意識改革 新たな発想が求められる
昨今は、構造改革が叫ばれていますが、遅々として進みません。最早、各個人、各会社が政府の改革に頼るということではなくそれぞれが自己の力で乗り切っていかなければならないという意識改革が必要だと思います。
政治、経済、あらゆる事で高度成長期から低成長又はマイナス成長期に日本が成っている事に意識がついて行っていない。気は付いていますが、行なう事が従来のままだと思います。政治も経済も、世相も行なおうとしている事と行動が違い、方向が四方八方に向かい一定性がない。これは意識が現実を把握していないからです。おぼっちゃまが酒を飲み、刃を振り廻し、道徳や教養を説いている感じです。平常、正常な意識に改革すべきです。
チャンス到来、トライするチャレンジ精神旺盛に競争する社員が勝ち組
経営上の問題がおきるとすべて“国が悪い！銀行が悪い！得意先が悪い！中国が悪い”とほとんど自己責任を他に転嫁する傾向がある。本当の自己の本質を理解しようとしていない。
国民一人一人が、ポジティブに物事を考え、自分自身を変えてゆかねばこれからの日本は大変なことになる。

12位 税制改革 (6人)

景気の低迷により、中小企業の体力が減退している。今後、日本全体の景気は徐々に回復傾向にあり中小企業の体力回復には抜本的な税制改革が不可欠であり、税制全体をバランスよく考えた抜本改革を期待します。
中小企業はじめ国民の大多数が階層の違いを感じている。一部、大企業、富裕層に利した改正が行なわれているような気がする。年金規制改革は公平に共生の精神からむしろ低所得者に利する改正が必要だ。
中小企業の経営安定のため、事業用資産の承継については非課税とするなど、抜本的な改革が必要。
1、本格的景気回復のため、抜本的な構造改革 2、年金、福祉等、将来の不安を国民は感じており、働き甲斐のある税制、老後の不安を払拭する為の税制改革

13位 中小企業(対策)改革 (6人)

全国企業数の99.7%が中小企業だと言われていますが、この中小企業への政府の考えが本当に中小企業の立場を理解しての政策であるのか、理解に苦しむ。まったく無策に等
--

しいと思っています。例)大企業には銀行が債権を放棄し、その銀行へ公的資金を投入する、など中小企業は誰も助けてくれません。
戦後50年、日本の復興に懸命な努力をしたのは、中小企業者である。中小企業の中でも、全国各地伝統的産業が苦戦している。伝統的産業を扱う100社以上で構成している協同組合を今助ける事。
全事業所数の99%を占める中小企業や地方経済の回復の遅れが、景気回復の重石となり、今回の民需主導の回復の腰を折る恐れがあり、政府はじめ皆が一丸となって中小企業や地方経済に焦点をあてた構造改革が必要である。

13位 少子化対策改革 (3人)

国の将来に係る重大問題と認識している。
1971年の出生率2.16から2003年には4割減の1.29となっている。この結果、我が国の総人口はまもなく減少し始め、また人口の高齢化が進行するなかにあつて労働人口の減少と高齢化は年金、医療、介護などをはじめ社会、経済全般に大きな影響を与える。
平成17年度より日本の総人口は逡減し始める。続けば、日本国は衰退する。子供を生み育てることのできる福祉改革が最も必要である。

その他 (回答者2~1人)

郵政	郵政貯金制度があるため、日本の金融機能は三分の一程度は社会主義化して、効率が悪く結果として国民負担が多くなっている。又民業を圧迫している。
郵政	国の予算収支を考へ、国 地方合わせての約1000兆円の借金をどうにかすること。国民が我慢するように教育する、教育改革が必要である。安全の確保
経済	景気の悪化に歯止めがかかる兆しも一部に見られ始めたが、民間需要は全体として停滞基調を脱するに至っておらず、景気の自律回復への展望は、依然として不透明である。
経済	大企業はリストラ及び合併等により経営改善が進んでいる。当地域は、もっともよいと言われている。しかし当地域は、中小企業が約99%で、特に具らグローバル化によって廃業を余儀なくされている企業が続出し、大きな問題になっている。
経済構造	外圧による規制緩和の結果、商業面では中心市街地の疲弊。工場の中国等へのシフトの中、地域がどう生きるか、中央のみでの改革でなく地域の持つ力を発揮できる特性を生かした新産業創出やものづくりの維持・発展の必要性を感じている。

経済構造	少子高齢化による今後の労働力人口の減少、国際競争力の減衰、高齢化にともなう福祉対策による財政負担の増大などを考えた場合、今進められている経済構造改革を、より大胆に進めることにより、日本経済の再生を図っていく必要がある。
産業構造	アメリカ型弱肉強食の規制緩和は、弱小企業の多い日本ではそぐわないと思います。日本では、ヨーロッパ型、保護制度を取り入れた競創（競走ではない）による、産業構造改革を行う必要あり。協創とは協調と創造による向上的競い。
産業構造	停滞するわが国経済の再生を図るには、新しい経済の仕組みづくりが重要であり、大胆な産業構造改革の推進が必要と考える。但し、改革の推進にあたっては、経営基盤が脆弱な中小企業のセーフティーネットに十分配慮すべきである。
小さな政府	真面目に働いて税金を納めている人が減っていき、公務員（地方、中央）、準公務員の数が多い。日本全体の競争力が落ちていく。自主・自助 誇りを持った国にするべき。
小さな政府	地方や民を考えている政治家がどの位いるのか。参議院を無くすほどの覚悟がなければ、税金が全て役人の給与が消えるという程のひどい財政状況からの回復はない。求む救国の士（真の）

IT環境	ITの普及は目を見はるものがありますが、あまりに急速な進展のためインターネットを契機とした痛ましい事故が多発しています。便利な機能を人間の心を失わず活用する環境づくりが急務です。
あて職をなくす	あて職をたくさんいただいておりますが、果してお役に立っているのかどうかうたがわしいと思っております。あて職を全廃して、適任者をえらんで任命すべきである。
甘えの構造	石垣7月号の「やり残したシャウブ氏の宿題」を読んで強く感じた
技術開発部門	閉塞感のある地域経済を打開、活性化するためには、新需要の開拓新技術、新製品の創造開発が不可欠であります。産官学の連携を密接にし、将来に向けての対応をしっかりと取っていかねばならない。
景気回復	小泉首相を辞任させること
経済立て直し	北海道企業の景況感に改善なし。一刻も早い経済(景気)の立て直しを。
憲法改正	国の主権を守る自立国家には、軍隊が必要である。権利の主張も重要であるが、それ以上に義務と責任を強く前面にだす憲法とする。

国家構造	敗戦を境に戦前の諸制度 システムすべてを悪として、否定するのに急ぎすぎた為、日本人の美徳である孝行、勤勉、我慢、家族愛、兄弟愛、郷土愛、祖国愛、質素儉約、師の恩といった、人間がなによりも優先し、大切にしなければならない徳目がみごとに失われている。このままでは日本人は滅びる。
根本	いろんな改革が進められているが、どれも中途半端であり国民が理解出来ない面ばかりである。もっと十分な論議をして納得の行く改革が望ましい。
自己資本確保	日本の将来、そして次代を担う子供達のため、民間企業と同様に国として自己資本をきちんと確保できるような、健全な財政にすることが必要であり、国債を発行することを止め、真の自主独立国家として世界に貢献できるような改革を期待したい。
将来ビジョン	政治、経済、社会、行政地方自治、教育、生活(年金、少子化)など、日本の将来をどのようにするか構築し、10年、20年、50年先を見据えたビジョンを国民に解る改革にすべきである。
新産業構造	日本の産業界が培って来た各分野の優れた技術を産学官の連携を通じて新しく組み合わせる事によって新産業を創造出来る様な従来規制の改革が必要です。
信頼される国際国家	テロの脅威にさらされる今こそ、アメリカ追従でなく、真の世界平和のため日本がリーダーシップをとる、外交と安全保障を進める必要がある。
中央	中央以外の地方の景気が本格的に回復し、地場中小企業まで波及しない限り真の景気回復ではない。
中央構造	構造改革は期待するものの、三位一体改革の取り組みへのプロセスに不満と不信感を抱いています。税源移譲について、内容が不透明であり、地方無視の感がある。地方自立への改革は必要であるが、先に中央政界と官体制の改革必要
デフレ	デフレにより、中央と地方の経済格差が拡大している。
特殊法人	現在の特殊法人の半分以上は、役人が役人の利益圏域を考えて作った法人である。これを全廃する。残った特殊法人に対しても公的資金の給付は厳重に審査する。
都市構造	かつての都市は城、駅、杜寺仏閣、港湾その他を中心として、機能的にも、美的にも整然としていたが、車社会到来の故かその構造がくずれてきた。小売店舗の規制には組みしないが、環境整備や都市計画の観点から法的にあるいは民協調で都市の再構築に意を注ぐべきと思います
都市集中を回避する	地方切捨の改革となっている人口密集の土地の無関心層の投票の多いことで新任されたとして、田舎を切り捨てる改革がつつき年々過疎化する。この際地方に投票を行うべきである。
土地税制	相続を含めての土地 税制の早急な改革が必要な時である。

日本	過去があって現在があり 未来がある。時代の推移は環境の日々変化である。現況のバランスシートには拘わってはいけない。21 世紀をターゲットに歴史の歩みを着実にステップアップ。
日本の国家像 明示 (改革 ×)	個々の改革もさることながら日本の国家像を決定するのが先決と思います。
日本の大転換 期 (節目)	日本人のアイデンティティの確立 (憲法の教育法の大改正) 日本の防衛力の自立化への転換 (いつまでもアメリカに依存はできない) 人口政策の少子化対策への大転換 (多子化政策、外国人雇用など) 中国生産からの脱却 (生産拠点移行による日本の空洞化、デフレ輸入、資源不足) 廃棄物の有効活用への転換 (資源は有限、廃棄物は資源)
人間	時代の流れ、時代の移り変わり、進化だと捉えればそれまでだが、人類誕生して人間の原点とは何か、今一度考え直してみる必要がある。経済の語源は中国から来たもので、経世済民を意味し、人々の幸福を追求し、福祉の向上をはかるもので「経済」「イコール」「福祉」である。この意味を踏まえ原点にかえり、人間とはいかにあるべきかの人間改革こそ21 世紀の初頭にもっとも大切な改革と考える。
武士道	大企業の事件 (例えばリコール隠し等) やお役所の無責任さ (社会保険庁をめぐる様々な報道が正しければ) 或いは外交の場でのやり取りを見ると、つくづく日本古来の「恥の文化」とか「命をかけて名誉を守る」とかを失ってしまったと感じる。(李登輝さんの言う通り)「恥ずかしいことはしない」「堂々と責任を取る」という気概が必要。
自ら努力して 社会を変えて いく	今、わが国は激変の時代の真只中であって、新しい社会システムを構築することが求められている。そのためには、国などに対して要求を並べたてるのではなく、自ら汗して世の中を変革してゆく姿勢に徹し、参画してその輪を拡げ、国民が真に希望する社会に変えてゆく改革に取り組んでゆかなければならない時期にある。
若者を育てる ための	現在フリーター、無職者併せて400万人といわれています。もともと責任のないフリーターを望む者もいるでしょうが、こういった人のやる気をおこさせる対策が国としても必要ではないでしょうか。また大学を卒業しても職につけない人も多いのではないのでしょうか。雇用対策をもっと充実すべきと考えます。

Q4 新入社員に読ませたい、この1冊

全国商工会議所会頭アンケート結果概要

Q4 新入社員に、是非読んでほしい本は？ 書名、著者名と、その理由もお聞かせください。		
新入社員に読ませたい、この1冊		
書名	発行元（分かれば）	著者名
理由		

全 109冊

1位は、司馬遼太郎の「坂の上の雲」(14人推薦)

2位は、新渡戸稲造の「武士道」(9人推薦)

3位は、養老孟司の「バカの壁」(6人推薦)

その他、歴史、経済、自己啓発から詩集まで多彩。

活字情報に、「満遍なく目を通してほしい」など、

書名を挙げない意見も多数(42P)。

平成16年8月2日

日本商工会議所

広報部・編集担当

(問合せ先) TEL : 03 - 3283 - 7901 Eメール : Aoyama_Naoki@jcci.or.jp

新入社員に読ませたい、この1冊。推薦書名と推薦理由(原則としてアンケート回答原文のまま)

書名横の()内: 推薦した会頭の商工会議所名

【推薦者14人】

坂の上の雲・司馬遼太郎 (旭川、一関、米沢、須賀川、茅野、横須賀、島田、瀬戸、上野、彦根、京都、出雲、玉野、小松島)

高次の理念、理想を復活させなければ、日本の現状を憂え、このままでは日本は滅びると忠告する。
欧米列強の不当な圧力をうけながらも短期間のうちに近代国家を作りあげた明治人の生き様を見習いたい。
100年前の日露戦争時における日本人の国の危機に対応する取組みに学ぶところが多い。
志を立て、それに向かって、努力し成し遂げて行く姿
欧米列強に抗して我々の先祖が日本と言う国民国家形成にいかに努力したか、そして現在の日本がこの涙ぐましい努力の上にあることを知ってもらいたい
新しい時代に対する感覚
日露戦争の時代を生きた当時の青春群像を現代に生きる青年にも必読してほしい。
現代の原点ともいえる明治・大正・昭和の歴史を知ることと、当時この国を動かした人達の生き様を知ること、今日の我々日本人に足りないもの、しなければならぬことが見えてくるような気がする。
国民のロマンを物語っている。
困難に向かってひたむきで一生懸命な姿
日本人とは何かを描いた作者と思う。日本とは、その日本を構成する日本人とは、社会、地域、及び私達の会社を構成するのも日本人である。近代国家日本を創った人々の生涯を見てほしい。日本、及び自分を見つめ直すためにも是非読んでほしい。
元気と戦略

【推薦者9人】

武士道・新渡戸稲造 (遠軽、水戸、川越、徳山、山陽、大洲、宇佐、桐生、恵那)

日本人に今一番かけているものを学ぶ。
少子高齢化社会を生き抜かねばならない若い人達に再び強烈な精神力と強い責任感を持っていただきたい。
日本の心、文化、精神をしっかりと持つこと。国際人の基本と考える
いまわれわれは何を考え、どう生きるべきか、その答えが...

今、日本という国ほど不明確な国はない。従って国民にも、日本という意識が希薄であり日本人としての倫理観、誇りに欠ける面がある様に思う。この教育者は本物であり、読めば日本人・日本の心が取り戻せるかも。

人間の生きるさま、高い志を持つことの大切さを学んでほしい

精神論

これからの日本人には、「武士道」的精神が必要

戦後、失われた「日本の心」今こそ蘇えさせなければ永久に失うことになる。

【推薦者6人】

バカの壁・養老孟司（亀田、七尾、熊谷、小田原、新見、鹿屋）

マスコミやすべてにとらわれず、自己判断で行動や経営する！話せばわかるなんて大ウソ！世の中の出来事に“眞理”はない

歴史的にも社会が大きく変動している現在、「人間とは」

人生での諸問題について多様な角度から考えるヒントがある

社会人としては、物ごとを多面的に観察し考えることを身につけなければならない。この本は大いに参考になると思います

【推薦者3人】

竜馬がゆく・司馬遼太郎（土別、日立、日田）

明治の若い志士達がこの危機をどうするか、高い志を持って行動した歴史を学ぶ事。

鎖国時代の中にあっても常に世界に目を向け、ケタ外れにスケールの大きな革新的でエネルギーギッシュな行動力に魅力を感じる。

職場の教養・(社)倫理研究所（八幡浜、小野、西都）

現在の教育の根源が間違っている様に思う。新入社員の社会に対する対応を考えなければ社会全体もよくなりません。企業もそうであり、毎日の対応によって少しずつでも社会に役立つ様に出来るのではないかと。判断力、実行力を身につけ、社会に役立つ人間形成が出来る様に思う。

経営倫理と共に職場の倫理としても日々の心がけが、社員の教育につながると思われる。

【推薦者2人】

自助論・スマイルズ （甲府（中村正直訳を推薦） 酒田（竹内均訳を推薦））

私は「自助努力・自己責任」の精神で経営にあたることを特に重要と考える。自助という言葉は英語の self help の直訳で日本にはその概念さえも存在しなかった。英国の思想家 S・スマイルズの著書「西国立志編」中村正直訳で自助という表現や概念が日本人に広く受け入れられた。新入社員に是非読んでもらい、自助努力に努めてもらいたい。

有名、無名の成功者たちの具体的な「自己実現のセオリー」が書いてあり 人生を切り拓いてゆく新入社員には恰好の指南書である。

ローマ人の物語・塩野七生 （京都、下関）

国造りとは、リーダーとは如何にあるべきかその生き様を通して考えさせてくれる。

小説 渋沢栄一・津本陽 （三島、武生）

幕末維新の激流に身を投じ時代の閉塞を打ち破った生涯。近代日本の国家システムの設計家であり ナショナルリーダー

江戸から昭和にわたる激動の時代を生き、我が国経済界の基礎を築いた大実業家渋沢栄一の生涯、その生き様は日本経済が大きな転換時代を迎えている中にある企業に身を置く者として是非一読いただきたい。

カルロス・ゴーン経営を語る （静岡、富士）

ゴーン氏といえば「コスト・カッター」のイメージが強いが、「人を大切にする」「従業員のやる気を起こさせる」「困難には正面から向き合う」、加えて「冷静な経営分析」や「合理的な計画設定」など、ゴーン氏の真髄に触れてもらいたい

経営の真実が語られている

三国志・吉川栄治 （松原、鹿島）

自分の天命を信じ前に進む者、人民の為に自分を犠牲にして命を捧げる者など「志」に魅力を感じる

子供の頃読みましたが、変化する時代、あらゆるタイプの君主、勇士、知者、その競い合いから国家成立、人間関係、子供関係、子供心に本当は判っていなかったと思います。然しこの本、何度読んだか忘れましたが、この本を基礎にしてあらゆる本を読むようになった気がします。何故か、又的はずれかわかりませんが、その後読んだ本が理解しやすかった気がしています。政治家の家に生まれたからかも知れません。

仕事のための12の基礎力・大久保幸夫（浜田、岩槻）

一人ひとりの社員が自らキャリアデザインを描くとともに、提案実行型の社員の育成が大事である。
これからの人生を社会人として生きていくにあたり、仕事をしていくには学校等で学んだ知識、技術や資格以外にも必要となる基礎力があることを知ってもらいたい。年代別に充実させるべき「力」が記されおり、今後のキャリア形成の参考にもなる良書

【推薦者1人】 書名横の（ ）内：推薦した会頭の商工会議所名

13歳のハローワーク(神岡)	村上 龍	いい学校を出ていい会社に入れば安心という時代は終わった。
2020年からの警鐘(串間)	竹内 正紀	我国の若者の意識や社会性さらには職場における使命等、幅広いジャンルでこの本は教えてくれる。
3分以内に話はまとめなさい(塩釜)	高井 伸夫	相手に言いたいことを伝え、納得してもらったり感動してもらったり行動してもらうには「3分以内に話すこと」が効果的といわれる。本書の内容は話を短くまとめる能力を磨くことで論理的な話の運び方や状況変化に適応する即応性なども身につく等、その効果的な話し方を解説している。
94%の顧客が「大満足」と言ってくれる私の究極のサービス(大曲)	ジャック・ミシェル 小川敏子訳	顧客サービスとは何かを解りやすく示している。サービスの意味を新入社員に理解してもらえそうです。
ああ同期の桜、かえらざる青春の手記(廿日市)	海軍飛行予備学生第14期会編	戦時中、学徒出陣した若人が特攻隊として死地に飛び立つ前の書簡である。命と向き合った人たちが残してくれた貴重なメッセージだから読んで欲しい。命に対して誠実に向き合ったときの言葉を聞いて、自分が本当にやりたいことが見えてくると思う
青色発光ダイオード(徳島)	テーマス編集部	会社組織と技術開発の苦労と実態が表現されている
赤い楯(山口)	広瀬 隆	社会がどのような仕組みになっていて、どのような勢力によって動かされているのかを考える参考となる
悪魔の飽食(本庄)	森村誠一	若い人に戦争の恐ろしさを知ってもらいたい。
石田 梅岩の著作(大和)		顧客中心の考え方の基本になるから

一時一言 (習志野)	松下 幸之助	人として生きることが書いてある。当り前のことを普通に理解できる為に
稲盛 和夫の著作 (八女)		技術的なものではなく人間として、知っておくべき基本的な事が必要だから
岩倉使節団という冒険 (八王子)	泉 三郎	映画「ラストサムライ」とテレビ「新選組」の影響で、サムライへの関心が若者の間にも高まりつつあるという。新渡戸稲造の「武士道」や李登輝の「武士道階題」がベストセラー入りしているのもその証左といえる。その背景にあるものはいったい何か。一つは最近のリーダーにみる無責任、墮落、理論感の欠落に対する憤りであろう。そして二つ目には、特に若い世代における歴史認識の貧弱さである。この本の中では、その失われたサムライの存在や精神を再発見できる。
上杉鷹山 (草津)	童門冬二	上杉鷹山は、様々な改革に取り組み、貧困の米沢を救った現在に通じる名君である。私は上杉鷹山の言った言葉である「為せば成る為さねば成らぬ何事も 成らぬは人の為さぬなりけり」を座右の銘にしている
上杉鷹山の経営学 (八日市)	童門 冬二	経営者として大いに参考になる。
うまくいっている人の考え方 (碧南)	ジェリー・ミンチントン (弓場隆訳) 中川昌彦著	壁にぶつかったら読む本
運命を創る (丸亀)	安岡 正篤	人間教育と東洋思想、人生の五計
運命を拓く (船橋)	中村天風	一度だけの大切な人生をいかに生くべきか、分かり易く説いている。
運を天に任すなんて 素描 中山 素平 (秋田)	城山 三郎	人間の生き様として、こうありたいと思われる人生哲学。勿論、日本興業銀行総裁をなさった方なので凡人では真似の出来ない所、多々あれど、こういう生き方を是非してみたい
沖縄巨大プロジェクトの奇跡 (沖縄)	太田 範雄	40年前に当時の人達が考えもしなかった巨大プロジェクトを発案し、数々の困難を乗り越え、見事に初志を成就させた実話で、「どんな困難な事も やる」という意思があれば出来るのだという事を体現した書である。

気のきいたハウ・レン・ソウ (春日井)	今井 繁之	仕事で大きな問題が起こったとき、組織で不祥事が発生すると、必ずハウ・レン・ソウ(報告・連絡・相談)不測が問題となる。新入社員からハウ・レン・ソウの重要性を徹底させたい
急成長のなぜだ (伊予)	廣末 好彦	若い人のパワーがあれば、今の時代でさえ急成長が可能だ、ということを実感させてくれます。また、個人の成長と会社の成長とが切り離せないものだということもわかります。
教育の提言 (経済について)(岡崎)	大川 博美 (本人)	特に読ませたい本はないが、自伝である教育への提言を社員に配布し、現代社会のしぐみを勉強してもらっている。
グッドラック (横手)	アレックス ロピラ	面白いこと。哲学？ 伝説？ ビジネス？ 読む人の心に対応する本
経営論 (川之江)	宮内 義彦	企業経営改革の中でリストラクチャリング、M&A、時価会計、コーポレート、ガバナンスの強化等米国流の経営手法を長期雇用、チームプレー等中心の日本型経営も取り入れた新しい経営論を展開。それぞれに詳細なしかもわかりやすい説明がついているため、新人教育には最適。
月刊「PHP」(名寄)	PHP	大変易しく、現代の若者達の意見が多く書かれています。人の生きる道について自然についていくと思われる。電車の中でも手軽に読める月刊誌 (¥ 330)
ケネディ大統領演説集 (下諏訪)	長谷川 潔	若人に勇気と感銘を与える
元気 (青梅)	五木 寛之	バブル崩壊後の日本が失ってきた元気を考えること
元気な会社の元気な経営 (天童)	疋田 文明	前向きなチャレンジ精神を
賢者の贈り物 (稚内)	O.ヘンリー	本当の人間愛をいうものを知ってほしいから
現場力を鍛える「強い現場」をつくる7つの条件 (長野)	遠藤 功	会社のビジョンや戦略は勿論大切だが、それが実行されなければ、意味がない。それを実現する強い現場こそ重要、新入社員が当事者意識をもつことの重要性
高速道路はタダになる (行田)	山崎 養世、吉田 寛	大人のための税金の絵本で読みやすくわかりやすい。世の中への問題提議、みんなで議論できるネタになる。

呼吸入門 (藤枝)	斉藤 学	息を吸う為には、一度息を吐いてから、大きく息を吸うことにより新しい空気を胸一杯吸い込むことが出来る。健康法であるが、物事への挑戦も同じ事。旧来の老醜を捨てて新しい創造挑戦が必要と説く。
国民の教育 (府中)	渡辺 昇一	将来を担う若者に国を愛し、地域を愛する心を育むことによって、真剣に今後の日本を考えてもらうためのきっかけになる本だと思うから
国民の文明史 (弘前)	中西 輝政	日本人としての誇りを持ってもらうため。
こころの道 (大府)	木村 耕一	「敬きを温ねて新しきを知る」昔から伝えられてきたいい話が述べられていて今後進むべき道へのヒントがある。
コロンブスの卵を生む男 (宿毛)	徳丸壮也命	プロデューサー型経営者の時代。発想と転換 意識革
ザ・ゴール (古河)	エリヤフ ゴールドラット	企業経営の基本がしっかりしているから
菜根譚 (青森)	中村 璋八・石川 力山	社会経験の浅い新入社員には理解しづらい内容かもしれませんが、無理のない身の丈にあった人生を送ってもらうための「人生の書」として一読していただきたい
逆さメガネ (会津若松)	養老 孟司	利口なバカが増えている、日本人の平均点が下がったのではないか。
さぶ (池田)	山本 周五郎	人間はどんなに賢くても現実の社会を一人で生きていくことはできない。必ず周りにいる誰かに助けられ生きているのだ。社会人になった若者に読んでもらいたい一冊。
座右のゲート (氷見)	斎藤 孝	壁に突き当たった時開く本
幸せになる法則を発見した人 丸山 敏雄伝 (沼田)	丸山 敏秋	この本に書いてあることを半分でも実行できれば成功する人は多いと思います。
仕事のできる人できない人 (赤穂)	堀場 雅夫	

失敗学のすすめ (富士宮)	畑村洋太郎	失敗は新たな創造行為の第一歩にすぎない。失敗を恥や減点対象としても、起こった失敗が隠ぺいされて、より大きな失敗へと種を成長させるだけ。それよりも、失敗の実態をきちんと見すえながら次の失敗が起こらないシステムをつくるべき
上司が鬼とならねば部下は動かず (中野)	染谷 和巳	一頭のライオンに率いられた百頭の羊の群は、一頭の羊に率いられた百頭のライオンの群れに勝つ
情熱の気風 (半田)	二宮 隆雄	先人に学ぶ
人使いが上手い人下手な人 (北見)	上野 郷利昭	企業の衰退は人材にありと言われているが現在の新人は、叱ることも叱られることもないので、常に人の後に居ようとする。これをたしなめているので是非読ませたい。
新入社員500の基礎知識 (各務原)	安田 賀計	
新入社員に贈る言葉 (高松)	日本経団連出版	我国のさまざまな分野の第一線で活躍されている50人の方々から、新社会人に、はなむけの言葉、励ましの言葉をいただいたもので、人生航路の糧となる一冊である。
成長経済の終焉 (燕)	佐伯 啓思	成長一本槍では真の豊かさは得られない。これからの日本のあり方、企業の生きざまを考えるうえで参考になる。
生命 (いのち) の暗号 (東予市)	村上 和雄	人間の能力はあらかじめ遺伝子に書かれてあり、それ以外のことはできない。人間の可能性を信じている人にはショックなことである。しかし、人間の遺伝子で現在にたっているのは5%~10%といわれ、あとは眠った状態にある。30億の膨大な遺伝情報をもちながら、そのほとんどはOFFの状態にある。眠っている遺伝子をONにするためにはあなた次第!!
生命燃ゆ (三次)	高杉 良	限られた時間に生命の灯を燃やした男の生き様に感動して欲しい。未練はあるが、悔いはない人生を送りたい。
壮士、ひとたび去って復た還らず (湯沢)	今村 了介	国の有り様、為政者の責任と義務、使命を学ぶ事ができる

掃除が変える 会社が活きる (城陽)	山本 健治	合理的に掃除することで、社員に規律と自主性が生まれる。ムダや浪費を追放でき、サービスや品質が向上する。掃除が全ての出発点だろう。いわゆる修業の名のつくのはみな掃除から始まる
大河の一滴 (糸 魚川)	五木 寛之	日本人としての歴史観、人生観に参考になるから
大健康 (掛川)	塩谷 信男	健康第一
男子の本懐 (福 江)	城山 三郎	日本経済の混乱を乗り切ったときの宰相と大蔵大臣の英断と果敢な挑戦は平成日本の危機への、1つの指針となるから.....。
チーズはどこへ 消えた? (松戸)	スペンサー・ ジョンソン	この物語の中のチーズとは、人生において私達が追い求めるものの象徴である。(仕事関係や健康、人間関係)迷路の中に住む2匹のネズミと2人の小人の単純なストーリーに託して、状況の変化にいかに対応すべきかを説き、各国でベストセラーとなった注目の一冊だから。
チップス先生 さ ようなら(名古屋)	ジェイムズ・ヒ ルトン	著名な作品なので、改めて解説するまでもないと思うが、英国の名門パブリックスクールを舞台に教鞭を執り続けた主人公が晩年を迎え、人生を振り返る。読む者にとって、自由で牧歌的な教育の大切さについて考えさせるとともに、現代の我国の教育のあり方を見つめ直す、という点で優れていると思うし、10代に読んだ頃と今とでは、また違った読後感を得ることができる。映画化もされた。
ディズニー7つの 法則 (鶴岡)	トム・コネラン	ディズニーを支える驚異的なリピーター率GSの秘密が良く解る(企業の基本)
天分に生きる(会 津喜多方)	蓮沼 門三	人間教育の原点
堂々たる日本人 (尾鷲)	泉 三郎	近代日本の黎明期である明治維新の頃、日本の進むべき針路を決めた男たちの害。とかく個のみを主張しがちな現在の中で、若くして国家の命運を掛けて一身を捧げて行動した人間像に触れて頂きたい。
徳川家康 (富良 野)	山岡 荘八	かつて、サラリーマンの必読書として読まれていたものであるが、今の時代新たな社会や組織の構築には、確固たる目標の設定の大切さと、希薄になりがちな人間関係にあって、人生の機微と相手の想いを読みとることの大切さを感じてほしい。長編を読了する力も育てたい。

得する人 (館山)	無能 唱元	仕事の達成方法、良き人間関係の築き方などを具体例をあげ満載。特に潜在意識 (アラヤ意識) の活力による自己の願望達成の仕方を説く章は仕事に行き詰まった時の心の支えとなる。
トヨタはいかにして最強の車をつくったか (豊川)	片山 修	自ら考える知をいかにして養って来たかを知る絶好の書
トヨタ流 最強の社員』はこう育つ (大竹)	若松 義人	強い競争力を持つ企業は人を育てる。人づくりは「自分づくり」である、との認識から新入社員の皆さんに一読をすすめる。特に2章「自分原因説」よし。
なぜか「仕事がうまくいく人」の習慣 (輪島)	ケリー・グリーン	
菜の花の沖 (大阪)	司馬 遼太郎	著者の司馬 遼太郎氏は、嘉兵衛の生き様をこよなく愛し、「今でも世界のどんな舞台でも通用する人物」と称している。これから社会の荒波に漕ぎ出し、職業人として世間に通用する“自分の価値”を高めていく新入社員に読んでほしい。
日経ビジネス (飯田)		“この一冊”は多数の本が氾濫している中でむつかしい。是非、定期購読をすすめたいビジネス誌です。
二宮尊徳のすべて (平塚)	長澤源央	実践合理主義
日本の再生への道 (対談) (臼杵)	奥田 碩、安藤忠雄	戦後の日本経済の成長と戦後の教育の問題が解る。
日本の論点 (新井)		社会人として、現在の日本の論点を認識してほしい (第一線オピニオンリーダー100余人による議論)
人間を幸福にする経済 (東海)	奥田 碩	新入社員には少し難しいかもしれないが、これからの目指すべき経済社会を知るのによい。
狙うて候 (堺)	東郷 隆	バブル崩壊時の第一次昭和維新、近時の第二次昭和維新という感覚からこの本を読んで欲しい。
パレスチナ紛争史 (成田)	横田 勇人	2001年9月11日の米国連続テロに象徴されるように21世紀はテロの時代と謂われるようになった。そのキーワードは米国のパレスチナ政策である。一方に片寄らない政策を取らず、米国は何故イスラエル寄りなのか? 本書は格好のテキストとなろう。

万人幸福の菜 (柳井)	丸山 敏雄	人間の指針を17カ条にし幸福の道を明記してある。明朗、愛和、気働であると。
一人によって興 る(指宿)	伊波新之助	ジャーナリストの時事エッセイ集だが「心」の大切さを訴える文は、人間としての行き方を教えられる。
風土(四日市)	和辻 哲郎	国際的な文化のちがいを理解する基礎的な考え方を知ることが出来る名著である。
不況もまた良し (東金)	津本 陽	不況の中から立ち上がる根気と将来の夢を思って行動する人間像を参考としてほしい。
船井幸雄の人財 塾(総社)	船井 幸雄	自分がどんな人財になるかヒントにして頂きたい
プロジェクトX(伊 勢崎)	NHKプロジェ クトX製作班	読書量の少ない若者にも話題性があり、違和感無く手にすることができ、また特に仕事での失敗、挫折等絶望的な状況に陥ったときに現場で実際に体験したことが、生の言葉で具体的に文章が綴られており、さまざまな人物が登場し、勇気と感動を与え大変示唆に富んだ内容であることによります。
粉飾国家(佐野)	金子 勝	年金や財政の真の問題点が記述されている
文明の衝突(桑 名)	サミュエル・ ハンチントン	21世紀を生きる日本の若者に、大きな視点で世界の流れと、我が国の将来を考えさせる一つの材料として勧めたい
平成三十年(宮 古)	堺屋 太一	日本の将来像について考えて欲しい
平成社員道(一 宮)	染谷 和巳	時代に迎合せず、時代に逆らっても、生きる道、勝つ道を行くことである。組織人としての行動規範と精神のあり方を身につけて下さい。
僕が日本を選ん だ理由(犬山)	ピーター・フラ ンクル	生まれたハンガリーを捨てフランスに亡命し、フランス人となる。ユダヤ系ハンガリー人の時に24歳で数学博士号を取り、数学オリンピック金賞を取る。アメリカでの研究生生活、世界の多くの人との出会い、自ら友人(人脈作り)を求めて行く実行力そして世界の人間の前での大道芸を行なう勇気、不可能を考えない、やってみないと結果は出ないという考え方等々
マーケティング部 (泉大津)	大木 英男	図解でわかる部門の記事が具体的に述べられている。

未熟経営・模範 経営 企業を鍛 えるジャガーの 法則 (練早)	片岡 嗣雄	社員一人一人が経営者となる為の勉強をする必要がある。経営者としての倫理観及び哲学を持てば会社は健全になると思うからである。
道は開ける (川 崎)	デール・カー ネギー	近時、人生の在り方、価値観などが非常に多様になり 複雑な世相と相俟って理想の生き方を追求することが、むずかしい環境になっており それだけに一旦障害に直面すると解決することが容易でない状況に陥り易いようにみえる。本書は50年以前にもてはやされたこともあったが、人生経験の浅い新入社員にとって、一つの指針を得る手段になるものと思われる。
道をひらく(下 松)	松下 幸之助	松下幸之助翁の自らの生き方を通じて人生に大切なことが判り易く書かれている。
宮沢賢治詩集・ 童話集 (花巻)	宮沢賢治	「世界全体が幸福にならないうちは、個人の幸福はあり得ない」という皆の幸せを願う哲学。雨にも負けず、の詩の中の「良く見聞きし、分かり、そして忘れず……あらゆることを自分の勘定に入れずに……」政治家に聞かせたい言葉なり
宮本 武蔵 (福 岡)	吉川 英治	夢と憧憬に向かって、煩惱・邪念に打ち克ち、自分を鍛錬し磨いていく過程に感銘する。今のような乱世に必要とされる人材となるためにお奨めしたい一冊。
無から始めた男 たち (山形)	日本経済新 聞社	20世紀を代表する経済人から21世紀の日本経済はどうあるべきかを探る。生まれながらにして、素質が備わっているわけではなく、先人達も人生の中からヒントを見つけて成し遂げできたわけであるので、その参考になれば幸甚です。
ゆたかな社会 (多度津)	J・K・ガルブ レイス	人間と社会のかかわりを理論的にとらえ、現在の社会に照らして読むと非常に役に立つと思う。
夢をかたちに (足 利)	山本 卓真	この本を読んでその後私はこの題名を座右の銘としています。日本経済が持っている力を若い人達に伝えたいと思います。

リーダー改造論 21世紀型リーダーシップとは (白河)	大竹 美喜	企業人としての心構えを学ぶのには好き本ではないかと思えます。自分を知ることによって企業をそして日本を思考することができるのではないかと存じます。
ルネッサンス 再生への挑戦 (大分)	カルロス・ゴーン	日産(株)を短時間で再生させた手法は21世紀の経営に非常に参考になる。
礼儀覚え書(加茂)	草柳 大蔵	人間関係を良くする基本的な事柄がよく分かる。従来日本人が持っていた「思いやりの心」「スマートさ」を再認識できる。
歴史の使い方 (観音寺)	堺屋 太一	現代を歴史的観点から論述している本で、氏の歴史の捉え方は、ビジネスキャリア構築の参考になる。
わが友 本田宗一郎(小諸)	井深 大	技術力、営業力、独自性を学ぶ事で、やがて自分を変える力となる。新分野開拓、グローバルに対応できる
わが道をゆく(赤平)	田辺 昇一	人間形成の知恵を受けられると思えます
私の生き方・考え方(奈良)	松下 幸之助	21世紀は産業資本主義へ転換すると言われているが、企業経営、新技術、言説をリンケージすることの必要性和困難性は同じである。
私の手が語る (鈴鹿)	本田宗一郎	1.ものづくりの基本。相手の立場にたつ。作って喜び、買って喜び」2.企業の体質。最初から苦しむ方向をとる。他に追いつかれず、あとが楽である。3.教育のあり方。憲法だといえ第9条だけ問題にするが、基本的人権とそれを確保し、尊重する責任と義務を立派に果たす人間づくりが第一である。
私の履歴書(白石)	日本経済新聞社	政治 経済・芸術等、各界の人の体験談を読む事ができる
私を支えたこのひとこと-人生と名言 格言(鳴門)	日本商工会議所編	苦難の時を支え、歓びの時を彩ったさまざまな言葉が自分の人生の励ましの言葉になると思うから。
我的中国(松江)	リー・ヒ英雄	アメリカ生まれで、日本に移住した。最近の中国の変貌が臨場感をもって平易な言葉で若者に理解されると思う。
運命を開く(丸亀)	安岡 正篤	「道徳」の美学と健康性

黒龍の枢(石岡)	北方 謙三	土方歳三の生き様(生き方)から今の日本政府の成り立ちの根底が見える。
不景気が終らない本当の理由(遠軽)	リチャード・A・ヴェルナー	混乱している日本経済を考えるうえで非常に参考になる

書名なし(岡山)		(偉人の伝記)偉人といわれる人達の物語には、それが誰であれ感銘を受けることが多い。
書名なし(伊万里)		一つだけの新聞ではなく複数の新聞を読み較べること。世情がどう動いているか、歴史がどう変わりつつあるかをはっきり知ると同時に知識と倫理を身につけること。
書名なし(西大寺)		勉強を薦めても新聞も読んでいない
書名なし(長岡)		若い人が本を読まなくなった。読書の習慣を身に付けて、活字の文化に親しんでいただきたい。
書名なし(能代)		活字離れが進んでいる。何でもよいからとにかく本を読むようにして欲しい。
書名なし(滑川)		社会人としてのマナー、心得の習(修)得
書名なし(玉島)		日々の生活の中に率先して正しい挨拶をしましょう。例、おはようございます。お休みなさい。すみません。ありがとうございます。等々
書名なし(井原)		数多くの良書が市販されているが、新入社員にはすべてを熟読する姿勢を求めたい。署名とか著者名は次の段階と思う
書名なし(新南陽)		特に読んで欲しい本は思い浮かばないが、NHK テレビのプロジェクトXは先人の苦勞の末、成功した事例を特集した番組であり、新入社員の方には自身の会社での仕事、個々の人生に非常に参考になると思う
書名なし(西宮)		メールやインターネットばかりでなく、活字情報として全国紙、経済・経営・時事関連の週刊誌や月刊誌、興味のある分野の専門誌や専門書・経営書、小説(ベストセラーもの、歴史もの、伝記等)などに毎日満遍なく目を通して欲しい。